

自ら進んで考えながらコミュニケーションを
 図ろうとする態度を育む外国語活動の授業づくり
 - 「コミュニケーションスパイス」を活用した
 必然性のある場面設定を通して -

研究構想図

長期研修員 半田 敦子

自ら進んで考えながら

英語でコミュニケーションを図ろうとする児童

スパイスの効いたコミュニケーション活動

実在の相手のために考え、英語で伝え合う活動

相手の望み

相手が知りたいこと

目的意識

これを伝えたら
喜ぶかな？

実在の相手

実際に存在する人

相手意識

どんなふうに
伝えようかな？

英語話者

日本語より
英語の方が分かる人

英語を使う
必然性

英語で
伝えなくちゃ！

英語を用いた
体験的な活動

英語に慣れ親しむ活動

使用場面に慣れる活動だが、自分の本当の考えや
思いを伝えられない

ゲーム等の活動は楽しいが、英語で
伝える楽しさは感じられない

英語で自分のことや
意見を言うことは
あまり楽しくない



歌やゲームで
楽しそうだけど
これだけで
いいのかしら



コミュニケーション
活動が話すだけ、
聞くだけで一方的に
なってしまう



「ALTのために日本のテレビ番組を紹介しよう」

(言語材料：What time is it?/It's seven P.M.)



英語に慣れ親しむ活動

英語を用いた体験的な活動

時刻などについてやり取りをしながらテレビ番組を紹介する活動

場面設定

相手の望み

- ・日本のテレビ番組について知りたい

実在の相手

- ・仮名の分かる人
- ・映画好きな人

英語話者

- ・日本語より英語の方が分かる人

活動前

目的意識

ALTの先生に日本のテレビ番組をぜひ見てほしい

相手意識

分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかな

英語を使う必然性

緊張するけど、自分で英語を使って伝えるぞ

活動中

相手に喜んでほしいと思いながら紹介した

分かりやすくはつきりと話した

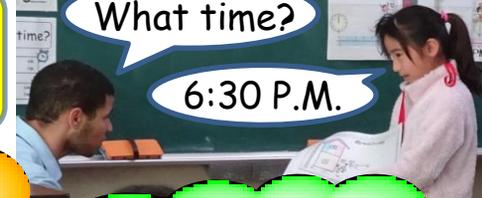
うまく伝えられるか不安で緊張した

番組名を英語でも書いて伝えた

自分なりに英語を使おうとした



相手の好みを考えて伝えることを選んだ



活動後

「Thank you」と言われたとき、紹介して良かったと思った

ALTの先生が笑顔で聞いたり、握手したいしてくれたのでうれしかった

またALTの先生と1対1で話したい

成果 相手に喜んでもらおうと進んで考え、自分なりの英語で、より分かりやすく伝えようとする児童が9割を超えた

課題 児童自ら進んで考えを伝えられるように、英語に慣れ親しむ活動の充実と実際に存在する英語話者との会話の積み重ねが必要である

提言 単元の最後に目的意識と相手意識を明確にした英語を使う必然性のある場面を設定しよう